

矢ヶ崎氏によると「一
般あたりの尿からセシウ
ムが検出された場合、体
内には約百五十倍のセシ
ウムがあると推定され、
「尿に混じって排出され
るほかに、セシウムは臓
器や筋肉に蓄積される」
と言つ。

不透明な経緯そのもの
が不信感を広げている。
尿検査の導入を訴えて
きた「福島老朽原発を考
える会（フクロウの
会）」の青木一政事務局
長は「この第三回検討委
の後、尿検査が議論され
た形跡はない。ろくな議
論もないままに秘密裏に
『尿検査は困難』という
合意が形成されたとした
ら問題。現に進行表が疑
問視した尿検査は実施さ
れていない」と批判す
る。

同会は昨年五月、福島
市内の子ども十人から採
取した尿をフランスの民
間検査機関「アクロ」に
送り分析。全員からセシ
ウムが検出され、保護者
らの危機感が高まった。
その後も県内外の子ど
も百二人を検査。これま
でに岩手、宮城、千葉県
など幅広い範囲でセシウ
ムが検出されている。
前出の菅野さんも、昨
年九月に当時四歳の長女
の尿検査を受けた。

「被ばくの切り捨て」



アクロの尿検査の結果を手に、「子どもを守らない行政を信頼できなくなった」と話す菅野さん＝24日、福島県伊達市で

来年の始動を目指す。

検出器の大半が輸入品で、一台二十万円近くに高騰するなか、安価で実用化する動きもある。

放射線測定器メーカー「シンメトリックス」（茨城県つくば市）が三百五十万円で商品化を目指している。ゲルマニウム半導体検出器は一二リットルの尿を半日以上かけて計測するのに対し、同社の測定器は放射線の検出

アクロのゲルマニウム半導体検出器＝青木一政さん撮影

にヨウ化セシウムの結晶を使用。一〇〇ccと少ない尿を、数時間でセシウム一リットル単位で測定する。野中修二社長は「被災地の方々のためにも、商品化にこぎ着け、お役に立ちたい」と語る。

矢ヶ崎氏は「内部被ばくの検査で一番大切なのは、たとえ少量でも被ばくしたかどうかを確認すること」と続ける。

「WBCは検出に限界があり、尿検査はWBCの四十倍から五十倍精度が良く、確認される人数で二桁も三桁も多い」と指摘して、こう訴える。

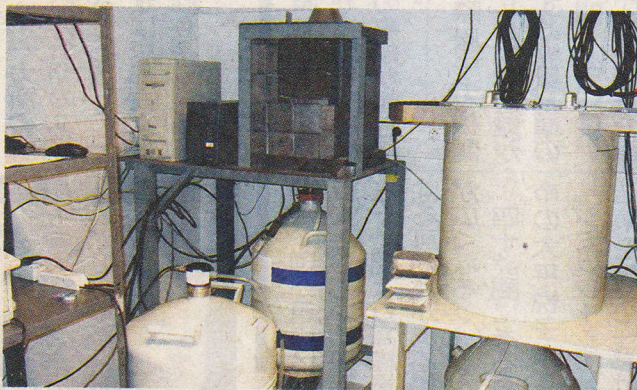
「より多くに、早期の予防や治療を施せる体制が大事。WBCにこだわる国や県は、潜在的な被ばく者の大半を切り捨てようとしているんじゃない」

尿検査なら 検出人数は大幅増

自宅は特定避難勧奨地区 横浜に避難し、食べ物に出せた。親が声を上げな
点に指定され、同七月に
も気をつけた。たとえば
家族で同じ伊達市内の低
射能を吸い込んでいて
線量地区に避難した。小
も、もう残っていないだ
ろうと期待もあった。シ
増す一方だという。「子
学三年生の長男を頭
に子どもは三人いる。

「心配でいてもたっても
いられないのに、行政
は全く検査してくれな
かったが、十一月に渡さ
れた」と憤る。父母のネ
結果は「検出せず」。だ
い。きちんと検査をし
ットワークに登録して駆
け込んだ同会の調査で、
被ばくが分からない。と
「一応あたり一〇〇・
四」が検出された。

「事故後から四月まで
ついては「ここから歩き
体検出器の購入を予定



全身測定器不検出「でも安心できない」